

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	3	課題区分	C	令和6年(2024年)5月1日
横断的な課題		2地域を支える産業のグレードアップ					上田地域振興局
地域重点政策		2地域を支える産業のグレードアップ					
実施機関		上田地域振興局			担当課	所属	林務課(普及林産係)
事業名		にぎやかな森プロジェクト				電話	0268-25-7138(直通)
						E-mail	uedachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	持続的な森林経営に向けて上田地域の森林の付加価値を高めるため、下記項目の調査研究・評価によりデータの見える化を図るとともに、地域林業経営者等へ成果を普及啓発する。					
	現状と課題	東信カラマツの需要が高まる中、主伐・再造林など持続的な森林経営にどう繋ぐかが課題。このような状況を踏まえると、地域林業の長期的課題に改めて向き合い、地域内で連携して課題解決に向けてひとつひとつ実践し、成果に関する社会的な認知を高めることが必要。折しも、脱炭素や気候変動への対応など、森林に対する社会的ニーズや機運が高まっている状況から、森林の新たな付加価値の創出も含め、幅広く調査研究に取り組むことが必要。令和4年度は、カラマツの更新伐箇所(モザイク20ha)での生物多様性調査、上田地域のSGEC認証森林のCO2吸収評価勉強会等を実施し、その成果を関係者に向けて報告会を開催した。支援企業も12社になった。令和5年度は企業等協力者を増やしつつ、引き続き、個別課題解決に向けた調査研究に取り組む。					
	内容 (変更後の内容)	下記項目について調査研究活動を実施し、単年度の成果を取りまとめる。 ① 林業活動が生物多様性にもたらす効果の調査・評価 ・実施内容 …管内認証森林の伐採・植栽地の動植物相(種数など)の変化を調査 ・現状と課題…森林の新たな付加価値の創出 ・成果の活用…林業活動による生物多様性保全への貢献度の見える化 生物多様性の見える化の取組をPR、企業のCSR・CSV投資を呼び込み ②森林のCO2吸収評価 ・実施内容 …R3年度施業実施森林におけるCO2固定量の評価を4市町村で実施 ・現状と課題…森林の新たな付加価値の創出 ・成果の活用…森林管理によるCO2吸収量の見える化と、成果のPRIにより、企業のCSRやCSV投資を呼び込む契機とする。 ③ カラマツ丸太木材強度試験 ・実施内容 …森林ごと斜面方向など生育条件別に丸太強度試験を実施 ・現状と課題…カラマツの新たな付加価値の創出 ・成果の活用…木材強度を必要とする製品づくりにつながる施業技術の確立 山側における丸太素材の高付加価値化 ④ カラマツ天然更新可能性調査 ・実施内容 …伐採跡地における実生による天然更新や成林に関する調査 ・現状と課題…長期的課題への対応 ・成果の活用…天然更新による再造林コストや労働力低減 持続的な森林経営手法の模索 ⑤ 調査研究活動の事例調査、報告会開催、報告書作成 ・実施内容… 他地域における事例等調査及び調査研究成果を地域林業経営者や社会貢献に興味のある企業等へ普及啓発を行う報告会の開催等 ・現状と課題…長期的課題への対応 ・成果の活用…調査研究成果に関する社会的認知の向上					
事業期間		令和5年(2023年) 4月 ~ 令和6年(2024年) 3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考
	①生物多様性評価		生物多様性効果の見える化		336,400		調査費336,400円
	②森林のCO2吸収評価		CO2吸収量の見える化		0		
	③カラマツ丸太強度試験		伐採現場での強度試験		127,200		調査費127,200円
	④天然更新可能性調査		天然更新技術の確立		44,520		調査費12,400円、資材費32,120円
	⑤事例調査・報告会		関係者への普及啓発		166,400		謝金166,400円
合 計				674,520			

指標及び達成状況	成 果 指 標	目標値	成果	達 成 状 況
	成果の普及啓発先 (勉強会や調査等に参加する連携団体・企業数 R4:48者)	55者		○ 達 成
			51者	○ 一部達成
				● 未 達 成
事業実績・成果	①調査研究の連携団体とともに、年間を通じて調査研究活動を行い、最後に成果報告会を開催し、支援企業や関係団体に普及啓発をした。 ・調査研究活動 15者(38名) ・調査研究成果報告会 28者(63名) ②令和3年度から始まった当プロジェクトの趣旨に賛同する企業2社と新たに森林の里親協定を締結し、支援企業は14社になった。(協定締結式1回開催)			
今後の方向性	最初の支援企業に協定期間の延長を働きかけるとともに、新たな支援企業との協定締結を目指す。また、支援企業や関係者の協力や提案を取り入れ、プロジェクトのさらなる活性化を図る。			